科目名称	成人看護学Ⅴ（終末期看護）	学年学期	単位数	時間数
		第２学年　後期	1	30
担当教員	学外講師	授業に関わる実務経験	■ 有（　　看護師　　） □ 無	

【1】 授業概要

終末期とはどのような時期か、患者の身体・精神・社会的特徴および家族の状況を知り、緩和ケアの考え方を学ぶ。そして、死にゆく人の心理過程を理解し、患者の身体的苦痛のみならずスピリチュアルペインを含む全人的苦痛に対する援助、ひいては QOL を高めることの意義を考える。また患者だけでなく家族の精神的苦痛を理解し、患者の死後もケアが必要であることを知り、これらの学習を通し自己の死生観を自らが学び深めてゆく姿勢を養う。

【2】 学習目標

1. 終末期の患者の全人的苦痛を理解し、家族を含めた援助方法について説明することができる。
2. 終末期における緩和ケアについて説明することができる。
3. 終末期患者の QOL を高める援助方法を考えることができる。
4. 人間の生と死について自らが考え続けることができる。

【3】 第１看護学科ディプロマ・ポリシーとの関連性

■ 1. 生活者としての人間の理解
■ 2. 人間の生命、尊厳、権利を尊重した判断・行動
■ 3. 多様な価値観、共感的態度、倫理に基づいた看護実践
■ 4. 科学的根拠に基づいた看護実践
■ 5. 多職種との連携・協働
□ 6. 地域医療の理解と生活の支援
■ 7. 自己の資質向上のための主体的な学び

【4】 授業計画

	内容	主な授業形態
1	緩和ケアの現状と展望	講義
2	緩和ケアにおけるチームアプローチ	講義
3	緩和ケアにおけるコミュニケーション	講義
4	緩和ケアにおける倫理的課題①	講義
5	緩和ケアにおける倫理的課題②	講義
6	全人的ケアの実践①身体的ケア	講義
7	全人的ケアの実践①身体的ケア	講義
8	全人的ケアの実践②心理的・社会的ケア	講義
9	全人的ケアの実践③スピリチュアルペイン	講義
10	家族のケア	講義
11	家族のケア	講義
12	臨死期のケア	講義
13	緩和ケアの広がり	講義
14	医療スタッフのケア、緩和ケアの教育、研究	講義
15	試験・まとめ	

【5】 評価方法

筆記試験 60%、課題 20%、グループワーク（成果物を含む）20%

【6】 教科書

恒藤暁：系統看護学講座　別巻　緩和ケア （第３版） 医学書院　2022 （電子版）

【7】 参考書

柏木　哲夫：ホスピス・緩和ケア　青海社　2006
E・キューブラ・ロス（鈴木　晶訳）：死ぬ瞬間　読売新聞社　1998
窪寺　俊之：スピリチュアルケア学序説　三輪書店　2004　　他随時紹介

【8】 受講生へのメッセージ

人間は必ず死を迎えます。死の瞬間までその人らしく生きることを支える看護を考えましょう。また、命の重みを考え、自分の命も大切にしてもらいたいです。